

アロマターゼ阻害薬『レトロゾール』について

レトロゾールとは、アロマターゼ阻害剤（男性ホルモンを女性ホルモンに転換する酵素を阻害する）といわれる薬剤で、閉経婦人の乳がん治療を適応症とする内服薬です。レトロゾールを短期間服用すると、女性ホルモンであるE2（エストロゲン）の一過性の低下に伴い、脳下垂体からのFSH（卵胞刺激ホルモン）分泌の増加と、卵巣内における男性ホルモンの一過性の増加に伴う、FSH受容体増加という2つの効果がみられ、卵胞発育を促進します。

レトロゾールは、多のう胞性卵巣症候群（PCOS）の排卵誘発や、原因不明不妊での卵巣刺激として使用されています。クロミフェンと比較して周期あたりの排卵率が高く、多胎率は低いとされています。最終生児獲得率は、クロミフェン19.1%に対し27.5%と有意に高く、双胎はクロミフェン6.9%に対し3.9%でした。

レトロゾールは、血中半減期が45時間と短いため、半減期が5-7日のクロミフェンにみられる子宮内膜の菲薄化、頸管粘液の減少がなく、自然に近い着床環境が準備されていることが有利とされています。

副作用としてめまいや倦怠感の報告がありますが、重大な副作用の報告はありません。当初、心臓および筋骨格系の異常が多いという報告がありましたが、その後先天異常の発生率は、自然妊娠やクロミフェンによる妊娠と変わらないとする報告が続いており、現在ではほぼ問題ないであろうと考えられています。